令和6年度 市民トーク 開催しました

7月に「令和6年度 市民トーク」が市内10会場で開催され、501人の皆さんに参加していただきました。当日、市長から説明した概要について紹介します。

問い合わせ　秘書広報課　渥美　☎(23)0052

川崎地区の様子

まちの話題として、昨年度から建設を進めていた市多目的体育館「GasOneアリーナ牧之原」が開館し、516席の観覧席のあるメインフロアやトレーニングルームの紹介をしました。また、同じく整備を進めていた市文化の森図書館「いろ葉」（旧榛原図書館）が4月にオープンしたこと、さらに2025年の大河ドラマに相良藩主である田沼意次侯が登場することから、「大河ドラマ展」を市史料館にて開催し、史料館を核とした観光周遊に取り組み、観光誘客や地域経済の活性化、郷土愛の醸成を図ることを報告しました。

リニア中央新幹線

リニア中央新幹線の概要や、流域住民の生活や産業に欠かせない「命の水」である大井川の水資源が県外へ流出すると予測される問題、その水をどのように戻すのかというJR東海の案について、国の有識者会議や県の専門部会の検討状況を説明しました。

また、新幹線新駅の設置については、新駅の開業により東部・西部の県民も利用する全県民の空港として、利用客や就航先の増加（増便）が見込め、当市にとってもさらなる地域振興と活性化の原動力となることを説明しました。

市の現状と課題

市では昨年度から、第3次総合計画がスタートし、年々減少する予測となっている人口減少をいかに抑制するかが課題となっています。

今年4月には、民間組織の「人口戦略会議」が将来的に消滅の可能性がある自治体として全国744市町村を公表し、県内では当市を含む9市町が該当しました。

この中で当市は「自然減対策が必要、社会減対策が極めて必要」と指摘されています。一方、市内には製造業を中心に、多くの世界的企業が立地しており、製造品出荷額等は約1兆円と県内有数の「ものづくり」のまちであります。

昼夜間人口比率を見ても、市は県内1位の約115％であり、周辺地域の雇用の場となっていますが、これは市外への所得流出を意味しています。

自宅と職場が近い距離にあることの「職住近接」を勧め、この昼夜間人口の差の解消し、移住定住の促進を進めることが重要と考えています。

市多目的体育館は5月1日にグランドオープン

第3次総合計画と今年度の取り組み

第3次総合計画では、まちづくりの理念を「RIDE ON MAKINOHARA　夢に乗るまち　牧之原」とし、▼富士山型ネットワークの充実▼ゼロカーボンと経済成長の好循環の実現▼日本一女性にやさしいまちの推進▼DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進▼次代を切り拓く力を育む新たな学校づくり―の5つの重点戦略・プロジェクトを掲げています。住民や来訪者が心豊かで、健康的、活動的な暮らしが実現できるまちを目指し、さまざまな取り組みを行っております。

まず、「富士山型ネットワークの充実」では、住宅用地造成工事が始まった相良牧之原IC北側整備事業は令和9年度のまちびらきを目指し、土地区画整理組合による事業が本格的に進んでいます。また、坂部地区では「道の駅『そらっと牧之原』」が令和7年7月の開業を目指し整備が進んでいます。さらに、15キロの海岸線を生かした沿岸部を活性化させることで、移住定住促進補助事業と絡めて、関係人口や交流人口の増加を図り、定住人口の確保につなげていきます。

「ゼロカーボンと経済成長の好循環の実現」では、荒廃農地の収益化と環境にやさしい農業の推進を目指す「オーガニックまきのはら推進事業」や市の地域資源を活用して、事業と地域を共に発展させるスタートアップ企業の誘致と定着の支援に取り組みます。

「日本一女性にやさしいまちの推進」では、子育て世帯の経済的な負担を軽減するため、国が行う子育て支援策に加えて、市独自に入学支援金の支給や、先進的医療分に適用できる不妊治療の助成を行っています。また、「月3万円ビジネス」などで子育て世代の女性の活躍を支援していきます。

また、市内には2600人（約6％）を超える外国人の方が住んでいます。多文化共生に係る取り組みとして、日本語の習得が不十分な外国籍の児童・生徒をサポートする「日本語初期支援教室『いっぽ』」や対話交流型の大人向けの教室である「はじめての日本語教室」といった取り組みも説明しました。

また、「次代を切り拓く力を育む新たな学校づくり」として進めている学校再編事業は、昨年度整備に関する基本構想・基本計画が策定され、令和12年度から15年度開校を目標に計画が進むことを説明しました。

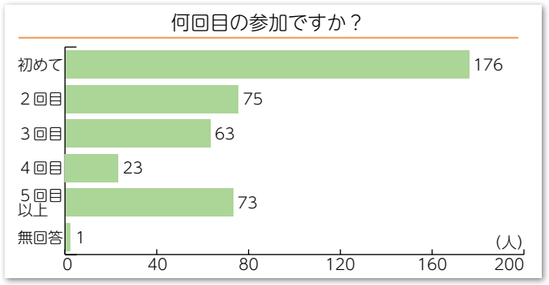
最後に、老朽化した市内の2つの火葬施設を統合し、バリアフリー対応や環境に配慮した新たな火葬施設について令和11年度供用開始を目指し整備を行うことを説明しました。

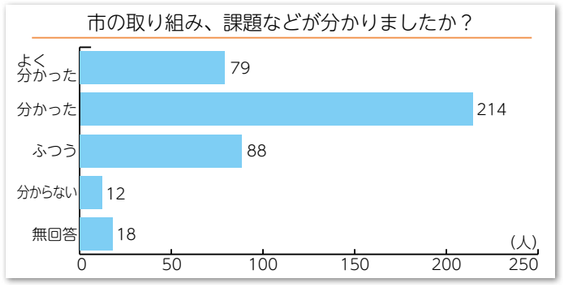
基礎的な読み書きや算数などを学ぶ「いっぽ」

今後整備される相良牧之原IC北側整備事業の「商業・産業街区」

アンケート結果

今後の取り組みに活用するため、会場でアンケート調査を実施しました。（回答者数：411人）





各会場データ

各会場での回答は、市ホームページで閲覧できます。

地区	実施日	地区から出された質問・要望	人数
川　崎	7月1日㊊	▶藤沢地区通学路の安全対策▶勝間田川の水門管理▶一斉清掃▶松くい虫による枯れ松の早期伐採	80人
萩　間	7月4日㊍	▶萩間小学校の跡地利用▶黒子の変則的な交差点▶空家対策▶耕作放棄地の草木	36人
相　良	7月5日㊎	▶新たな学校づくりのコンセプト▶自治会脱退希望者の対処▶女性の地域参画▶バス事故に伴う対応と今後▶市歌の活用▶信号機の廃止▶信号機撤去後の安全対策	72人
地頭方	7月8日㊊	▶地頭方地区の活性化▶一市二庁舎▶地頭方海浜公園	41人
菅　山	7月10日㊌	▶火葬場の跡地▶菅山小学校の跡地利用▶バス事故▶旧相良地区の賑わいづくり▶バス渋滞対策▶学校再編後の新通学路▶図書館	51人
牧之原	7月11日㊍	▶高台開発構想の見直し	56人
片　浜	7月17日㊌	▶信号機・横断歩道の撤去▶巨大地震時の防災▶国道150号線バイパス▶堀切川・大溝川の川底土砂の浚渫▶サル・イノシシの被害状況▶横沢川のポンプ設置	30人
細　江	7月22日㊊	▶細江小学校に代わるコミュニティ▶南海トラフ地震に対する訓練▶防潮堤や水門完成後の津波浸水区域▶女性の地域参画と自治会の再編▶新しいごみ焼却場の協議状況▶ふるさと納税▶枯れ松の現状把握▶耕作放棄地の草木	54人
坂　部	7月24日㊌	▶空港隣接地域賑わい空間創生事業▶耕作放棄地▶道の駅「そらっと牧之原」の利活用	30人
勝間田	7月29日㊊	▶原発再稼働に対するスタンス▶市の防災備蓄▶ごみステーションの不法投棄対策▶二級河川の監視カメラの設置▶市および県における茶業支援政策	51人
		計	501人